【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和3年3月4日(2021.3.4)

【公開番号】特開2018-141956(P2018-141956A)
【公開日】平成30年9月13日(2018.9.13)
【年通号数】公開・登録公報2018-035
【出願番号】特願2018-5701(P2018-5701)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　9/08　(2006.01)
Ｇ０３Ｇ　9/087　(2006.01)
Ｃ０１Ｇ　23/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　9/08　３７４
Ｇ０３Ｇ　9/08　３１１
Ｇ０３Ｇ　9/08　３３１
Ｇ０３Ｇ　9/08　３２５
Ｃ０１Ｇ　23/00　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】令和3年1月15日(2021.1.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
トナー粒子と、外添剤と、を含有するトナーであって、
該外添剤が、チタン酸ストロンチウム粒子を含有し、
該トナーの平均円形度が、０．９３５以上０．９９５以下であり、
該チタン酸ストロンチウム粒子は、
一次粒子の個数平均粒径が、１０ｎｍ以上６０ｎｍ以下であり、
該チタン酸ストロンチウム粒子は、ブラッグ角をθとしたとき、２θが１０°以上９０°以下の範囲で得られるＣｕＫαのＸ線回折スペクトルにおいて、３９．７００°±０．１５０°と４６．２００°±０．１５０°との範囲にそれぞれピークを有し、
該３９．７００°±０．１５０°におけるピークの面積をＳａとし、
該４６．２００°±０．１５０°におけるピークの面積をＳｂとしたとき、
Ｓｂ／Ｓａが、１．８０以上２．３０以下である
ことを特徴とするトナー。
【請求項２】
前記トナーのガラス転移温度が、５０℃以上７０℃以下である、請求項１に記載のトナー。
【請求項３】
前記チタン酸ストロンチウム粒子は、Ｓｒ／Ｔｉ（モル比）が、０．７０以上０．８５以下である、請求項１又は２に記載のトナー。
【請求項４】
前記チタン酸ストロンチウム粒子の一次粒子の平均円形度が、０．７００以上０．９２０以下である、請求項１～３のいずれか１項に記載のトナー。
【請求項５】

前記チタン酸ストロンチウム粒子の一次粒子の平均円形度が、０．７９０以上０．９２０以下である、請求項４に記載のトナー。

【請求項６】

前記チタン酸ストロンチウム粒子は、メタノール／水混合溶媒に対する濡れ性試験において、波長７８０ｎｍの光の透過率が５０％の時のメタノール濃度が、６０体積％以上９５体積％以下である、請求項１～５のいずれか１項に記載のトナー。

【請求項７】

Ｘ線光電子分光装置により測定される前記トナーの表面のチタン酸ストロンチウム粒子による被覆率が、５．０面積％以上２０．０面積％以下である、請求項１～６のいずれか１項に記載のトナー。

【請求項８】

前記チタン酸ストロンチウム粒子の含有量が、トナー粒子１００質量部に対して、０．０５質量部以上５．０質量部以下である、請求項１～７のいずれか１項に記載のトナー。

【請求項９】

前記トナー粒子が、コアと、コアの表面に存在するシェル層と、を有するトナー粒子である、請求項１～８のいずれか１項に記載のトナー。

【請求項１０】

前記シェル層が、ポリエステル樹脂、スチレン－アクリル共重合体、及びスチレン－メタクリル共重合体からなる群から選ばれる少なくとも一つを含有する、請求項９に記載のトナー。

【請求項１１】

Ｘ線光電子分光装置により測定される、前記トナー粒子の表面に存在する炭素原子の量をＡ（ａｔｏｍｉｃ％）とし、

Ｘ線光電子分光装置により測定される、前記トナー粒子の表面に存在する硫黄原子の量をＥ（ａｔｏｍｉｃ％）としたときに、

Ｅ／Ａが、下記式（１）を満たす、

$$3\times10^{-4}\leqq E/A\leqq 50\times10^{-4} \quad (1)$$

請求項１～１０のいずれか１項に記載のトナー。